

秋 田 県

# 土木工事共通仕様書

平成25年4月1日以降適用

# 出来形管理基準

## 【土地改良編】

赤字：秋田県独自項目

青字：今回改訂部分

(H25.4.1改訂)

—表紙（裏）空欄—

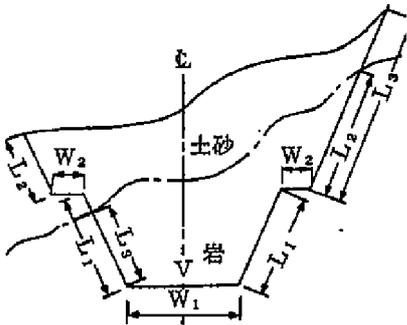
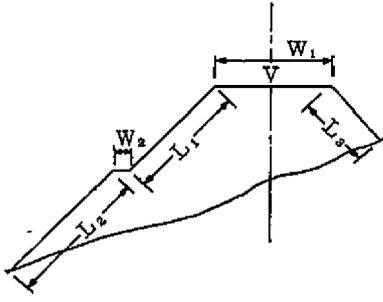
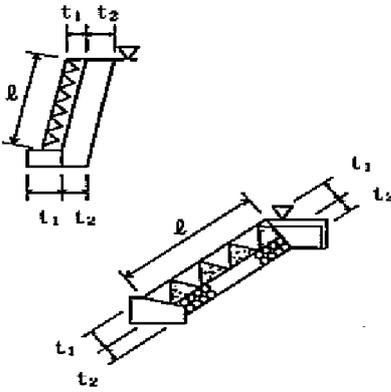
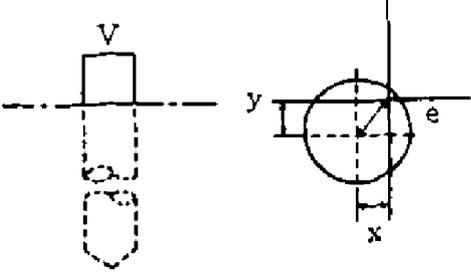
# 目 次

## 出来形管理基準（土地改良編）

1. 共通工事	1
2. 水路工事	11
3. 頭首工工事	15
4. 河川護岸工事	15
5. 道路工事	15
6. 農用地造成工事	19
7. ほ場整備工事	21
8. 暗渠排水工事	23
9. 橋梁工事	23
10. 畑地かんがい工事	27
11. 公害防除特別土地改良事業	27
12. 海岸河川工事	29
13. 地すべり工事	29
14. ため池工事	29
15. 公園緑地工事	31

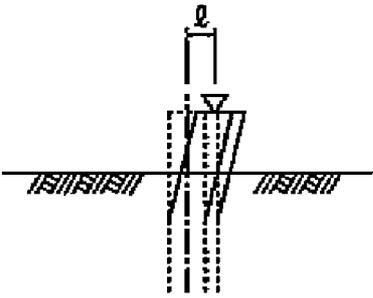
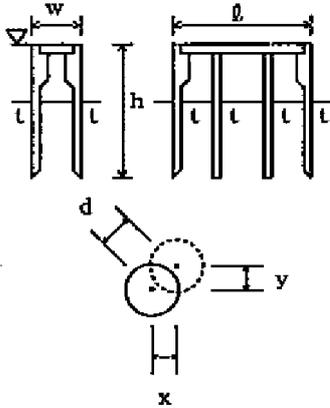
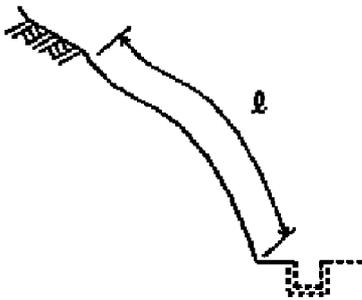
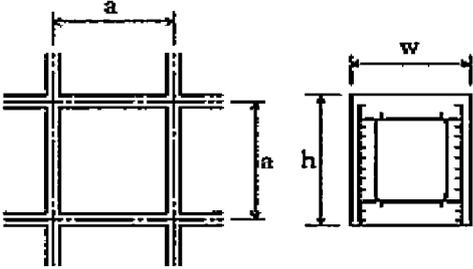
別表 1 直接測定による出来形管理

工種		項目	規格値
1 ・ 共 通 工 事	掘削	基準高(V)	± 50
		幅(W)	-100
		法長(L)	
		L < 5 m	-200
		L ≥ 5 m	法長の-4%
		施工延長	-200
	盛土	基準高(V)	± 50
		幅(W)	-100
		法長(L)	
		L < 5 m	-100
		L ≥ 5 m	法長の-2%
		施工延長	-200
	石積工 ブロック積工 石張工 ブロック張工	基準高(▽)	± 50
		厚さ(t1)	-50
		厚さ(t2)	-50
法長(l)			
l < 3 m		-50	
l ≥ 3 m		-100	
基礎杭打工 木杭 コンクリート杭 鋼管杭 場所打杭 深礎杭	基準高(V)	± 50	
	偏心量(e)		
	木杭	なし	
	コンクリート杭 鋼管杭、H鋼杭 場所打杭	D/4以内かつ 100以内	
	深礎杭		
	根入長		
	木杭	なし	
	コンクリート杭 鋼管杭 場所打杭 深礎杭	設計値以上	
	傾斜		
	杭径	1/100以内	
	場所打杭	設計径(公称径)-30以上	

測定基準	測定箇所
<p>施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。            河川土工の基準高は、掘削部の両端で測定。            道路土工の基準高は、道路中心線及び端部で測定。</p>	
<p>施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。            河川土工の基準高は、各法肩で測定。            道路土工の基準高は、道路中心線及び端部で測定。</p>	
<p>施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。            厚さは、上端部及び下端部の2箇所を測定。</p>	
<p>全数について杭中心で測定。</p>	 $e = \sqrt{x^2 + y^2}$

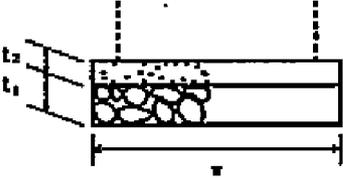
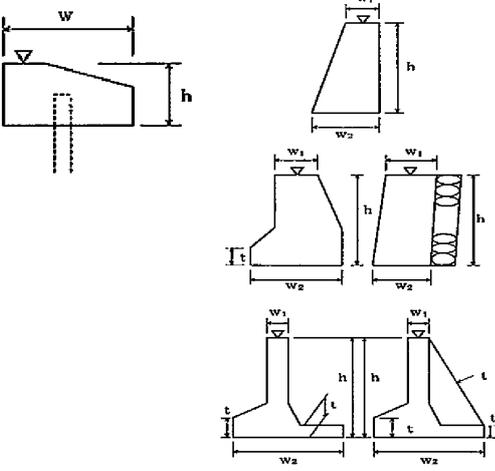
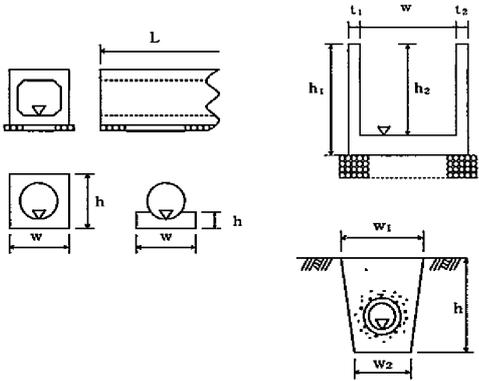
別表 1 直接測定による出来形管理

工種		項目	規格値
1 ・ 共 通 工 事	矢板打工	基準高(▽)	± 50
		変位(l)	100
		施工延長(L)	-200
		根入長	設計値以上
	オープンケーソン	基準高(▽)	±100
		厚さ(t)	- 20
		幅(w)	- 50
		高さ(h)	-100
		長さ(l)	- 50
		偏心量(d)	300以内
	吹付工 (仮設を含む) (コンクリート) (モルタル)	法長(l)	
		l < 3 m	- 50
		l ≥ 3 m	-100
		吹付厚さ(t)	
		t < 5 c	- 10
		t ≥ 5 c	- 20
		但し、吹付面に凹凸がある場合の最小吹付厚は、設計厚の50%以上とし、平均厚は設計厚以上。	
	施工延長(L)	-200	
	法枠工 (現場打法枠工) (現場吹付法枠工)	法長(l)	
		l < 1 0 m	-100
		l ≥ 1 0 m	-200
幅(w)		- 30	
高さ(h)		- 30	
吹付枠中心間隔(a)		±100	
延長(L)		-200	

測定基準	測定箇所
<p>基準高は、施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。            変位は、施工延長20m（測点間隔25mの場合は25m）につき1箇所、延長20m（又は25m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。</p>	
<p>壁厚、幅、高さ、長さ、偏心量については、各打設ロットごとに測定。</p>	<p><math>d = \sqrt{x^2 + y^2}</math></p> 
<p>施工延長40mにつき1箇所、40m以下のものは1施工箇所につき2箇所。            測定箇所に凹凸があり、曲線法長の測定が困難な場合は直線法長とする。</p>	
<p>200m<sup>2</sup>につき1箇所以上、200m<sup>2</sup>以下は2箇所をせん孔により測定。</p>	
<p>1 施工箇所毎</p>	
<p>※注：農水省は、H19.4～法面保護工事へ移動</p>	
<p>施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。            枠延長100mにつき1箇所、枠延長100m以下のものは1施工箇所につき2箇所。</p>	
<p>1 施工箇所毎</p>	

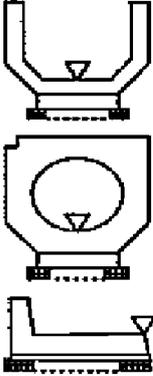
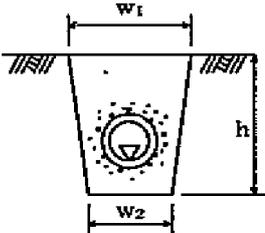
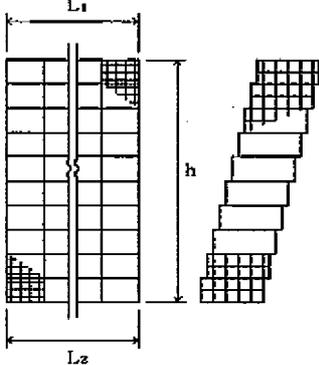
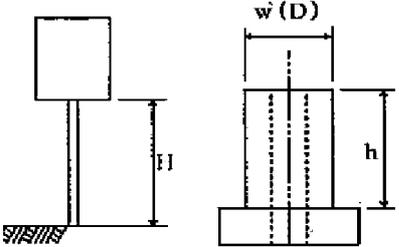
別表 1 直接測定による出来形管理

工種		項目	規格値		
1 ・ 共 通 編	植生工 (張芝工) (筋芝工) (種子吹付工) (植生ネット工)	法長(l)			
		l < 5 m	切土 -200		
			盛土 -100		
		l ≥ 5 m	切土 法長の -4%		
			盛土 法長の -2%		
		施工延長(L)	-200		
	植生工 (客土吹付工) (厚層吹付工)	法長(l)			
		l < 5 m	-200		
		l ≥ 5 m	法長の -4%		
		厚さ(t)			
		t < 5 c m	-10		
		t ≥ 5 c m	-20		
		但し、吹付面に凹凸がある場合の最小吹付厚は、設計厚の50%以上と			
		施工延長(L)	-200		
	砂基礎	砕石基礎、栗石基礎を適用			
	切込砂利工 砕石基礎工 割栗石基礎工 均しコンクリート	幅(w)	設計値以上		
		厚さ(t1、t2)	-30		
		施工延長(L)	各構造物の規格値による		
コンクリート付帯構造物 コンクリート基礎 コンクリート側溝 コンクリート管渠 横断構造物 コンクリート擁壁 その他上記に準ずるもの		コンクリート 基礎工	擁壁工		
	基準高(▽)	± 30	± 50		
	厚さ(t)	/		-20	
	裏込め厚さ			-50	
	幅(w)	-30	-30		
	高さ(h)	-30	/		
	h < 3 m	-50			
	h ≥ 3 m	-100			
	施工延長(L)	-200	-200		
		コンクリート 側溝	コンクリート管 渠・横断構造物		
	基準高(▽)	± 30	± 30		
	厚さ(t)	-20	-20		
	幅(w)	-30	-30		
	高さ(h)	-30	-30		
施工延長(L)	-200	-200			

測定基準	測定箇所
<p>施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。</p>	
<p>1 施工箇所毎</p>	
<p>施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。</p>	
<p>施工面積200m<sup>2</sup>につき1箇所、面積200m<sup>2</sup>以下のものは1施工箇所につきは2箇所。 検査孔により測定。</p>	
<p>1 施工箇所毎</p>	
<p>施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。</p>	
<p>施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。</p>	
<p>1 施工箇所毎</p>	
<p>施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。なお、製品使用の場合、製品寸法については、規格証明書等による。</p>	
<p>1 施工箇所毎</p>	

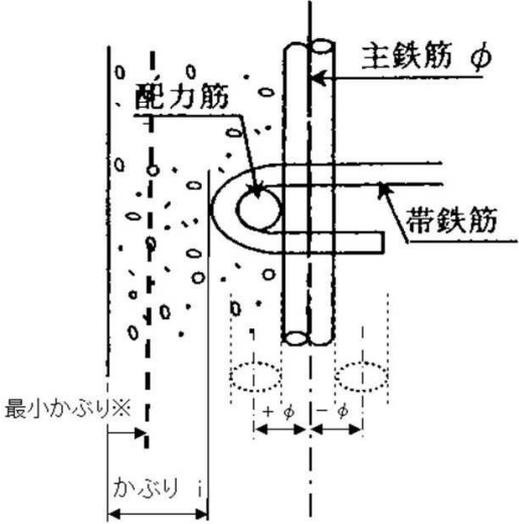
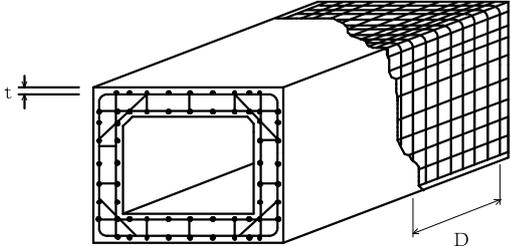
別表 1 直接測定による出来形管理

工種		項目	規格値	
1 ・ 共 通 編	精度を有するもの 分土工計量部 ゲート戸当部	基準高(▽)	± 30	
		厚さ(t)	- 20	
		幅(w)	- 30	
		高さ(h)	± 30	
		長さ(L)	- 50	
	U字溝 U字フリューム ベンチフリューム	基準高(▽)	± 30	
		施工延長(L)	-200	
	土水路		ほ場整備・水路工を適用	
	地下排水工 (ドレーン等)	基準高(▽)	± 30	
		幅(w)	- 50	
		深さ(h)	- 30	
		施工延長(L)	-200	
	フトン籠工 かご工	高さ(h)	-100	
		延長(L1、L2)	-200	
基準高		指定したとき -100		
標識工	設置高(H)	設計値以上		
	基礎幅(w(D))	- 30		
	基礎高さ(h)	- 30		
	基礎根入れ長	設計値以上		

測定基準	測定箇所
<p>図面の寸法表示箇所にて測定。</p>	
<p>施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、延長40m（又は50m）以下のものは1箇所につき2箇所。 1箇所毎／1箇所毎</p>	
<p>施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、延長40m（又は50m）以下のものは1箇所につき2箇所。 1箇所毎</p>	
<p>施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、延長40m（又は50m）以下のものは1箇所につき2箇所。</p>	
<p>1箇所／基礎1基毎</p>	

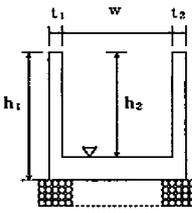
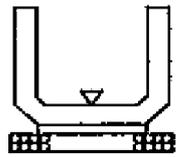
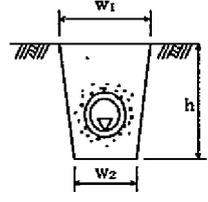
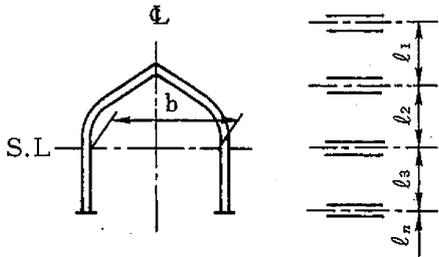
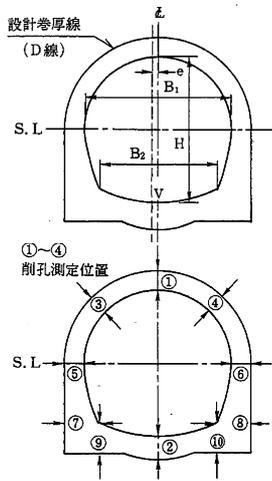
別表 1 直接測定による出来形管理

	工種	項目	規格値
1 ・ 共 通 編	鉄筋組立	かぶり (i)	± φ かつ最小かぶり以上
		主鉄筋位置	± φ
		平均間隔 (d)	± φ

測定基準	測定箇所
<p>建設交通部 P1-132、133</p> <p>工事の規模に応じて、1リフト、1ロット当たりに対して各面で1箇所以上測定する。最小かぶり は、コンクリート標準示方書（設計編13.2）参照。但し、道路橋示方書の適用を受ける橋については、道路橋示方書（Ⅲコンクリート橋編6.6）による。</p> <p>橋梁コンクリート床版桁（PC橋含む）の鉄筋については、3-3-4-1 2床版・横組工を適用する。</p>	
$d = \frac{D}{n - 1}$ <p>D : n本間の延長 n : 10本程度とする φ : 鉄筋経</p> <p>工事の規模に応じて、1リフト、1ロット当たりに対して各面で1箇所以上測定する。</p>	

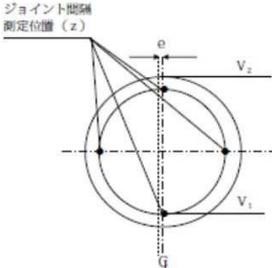
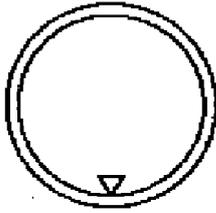
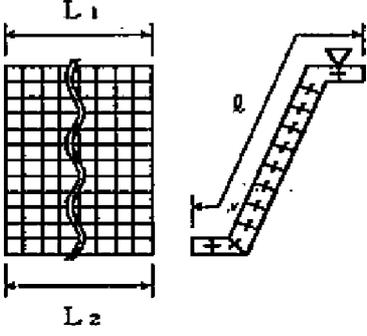
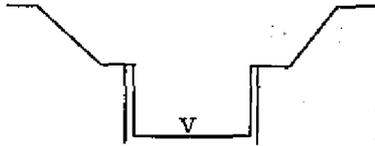
別表 1 直接測定による出来形管理

工種		項目	規格値
2 ・ 水路 工事	開水路（現場打ち）	基準高(▽)	± 30
		厚さ(t1、t2)	- 20
		幅(w)	- 30
		高さ(h1、h2)	- 30
		施工延長(L)	-200
	コンクリート二次製品水路 コンクリート二次製品 大型フリーフォーム水路 鉄筋コンクリートL型水路 コンクリート二次製品 ボックスカルバート	基準高(▽)	± 30
		施工延長(L)	-200
	暗渠（現場打ボックス）	基準高(▽)	± 30
		厚さ(t)	- 20
		幅(w1、w2)	- 30
		高さ(h)	± 30
		施工延長(L)	L < 20m - 50 L ≥ 20m - 100
	サイフォン（現場打）	暗渠（現場打ボックス）を適用	
	水路トンネル 支保工	間隔(λ)	± 75
		幅(b) Bタイプ	- 0
		幅(b) C・Dタイプ	- 40
	コンクリート覆工	基準高(V)	± 50
		巻厚(t)	- 0
幅(B)		- 40	
高さ(H)		- 40	
中心線のズレ(e)		直線部 ±100 曲線部 ±150	
施工延長(L)		-0.1%ただし、 150m未満-150	

測定基準	測定箇所
施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、延長40m（又は50m）以下のものは1箇所につき2箇所。	
1 箇所毎	
施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、延長40m（又は50m）以下のものは1箇所につき2箇所。	
1 箇所毎	
両端、施工継手及び図面の寸法表示箇所にて測定。	
幅、間隔は、全基数について測定する。 支保工幅の測定時期は、原則として建込み直後及び覆工前の2回とする。	
1. 基準高、幅、巻厚、高さについては、1スパンにつき1箇所の割合で測定する。 2. 巻厚 (1) コンクリート打設前の巻立空間を1スパンの終点において図に示す①～⑩の各点で測定する。 (2) コンクリート打設後の覆工コンクリートについて1スパンの端面（施工継目）において図に示す①～⑩の各点で測定する。 (3) 削孔による巻厚の測定は、図の①において50mにつき1箇所、②③④において100mにつき1箇所の割合で行う。 ただし、トンネル延長が100m未満のものについては2箇所以上の削孔を行い巻厚測定を行う。 3. 中心線のズレ 直線部は50mにつき1箇所、曲線部は1スパンにつき1箇所の割合で測定する。	

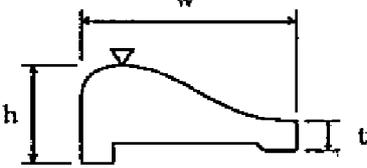
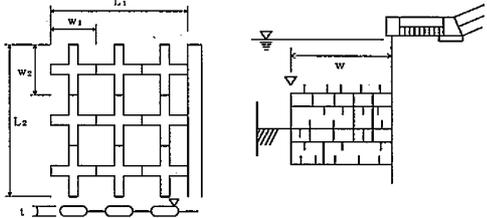
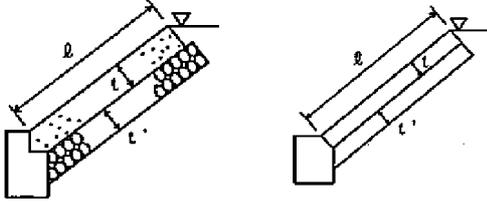
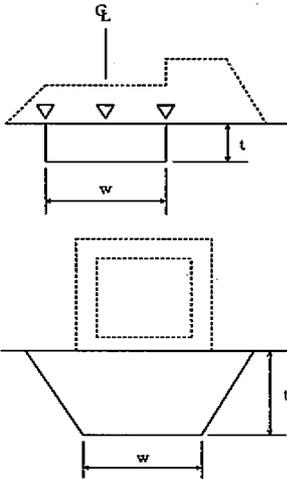
別表 1 直接測定による出来形管理

工種		項目	規格値
2 ・ 水路工	管水路 (コンクリート二次製品)	基準高(V)	± 30
		施工延長(L)	-200
		中心線のズレ(e)	±100
		ジョイント間隔(z)	別表ア、イ参照
	管水路 (鋳鉄管) (強化プラスチック 複合管)	基準高(V)	± 30
		施工延長(L)	-200
		中心線のズレ(e)	±100
		ジョイント間隔(z)	別表ウ、エ参照
	管水路 (硬質塩化ビニル管)	基準高(V)	± 50
		施工延長(L)	-200
		中心線のズレ(e)	±120
	管水路(鋼管)	基準高(V)	± 30
		施工延長(L)	-200
		中心線のズレ(e)	± 45
	管水路基礎 (砂基礎等)	幅(B)	-100
		高さ(H)	± 30
	推進工(管渠)	基準高(V)	± 30
		中心線の変位(水平)(e)	± 50
		施工延長(L)	-200
		勾配	逆勾配としない。
連節ブロック コンクリートマット	基準高(▽)	± 50	
	法長(l)	-100	
	施工延長(L)	-200	
排水フリューム	基準高(V)	± 75	
	施工延長(L)	-200	
暫定土水路	ほ場整備・水路工を適用		

測定基準	測定箇所
施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、延長40m（又は50m）以下のものは1箇所につき2箇所。 1 施工箇所毎	 <p>ジョイント間隔 測定位置 (z)</p> <p>基準高 (V)は、<math>V_1</math>、<math>V_2</math>のいずれか一方を測定し、管理する。</p>
施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、延長40m（又は50m）以下のものは1箇所につき2箇所。 1 施工箇所毎	<p>※鋼管の適用範囲は原則として下記による。</p> <p>管 種 JIS G 3443-1(水輸送用塗覆装鋼管—第1部：直管) WSP A-101-2009(農業用プラスチック被覆鋼管)</p> <p>寸 法 80A~3500A</p> <p>塗覆装方法 管 外 面 プラスチック被覆 管 内 面 エポキシ樹脂塗装とする。</p> <p>接 合 法 突き合わせ溶接継手とする。</p> <p>工 法 通常の開削による布設工法とする。</p> <p>管路の範囲 導水管、送水管及び配水管とし、配水池、ポンプなど端部施工との接合部までとする。</p>
施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、延長40m（又は50m）以下のものは1箇所につき2箇所。 1 施工箇所毎	
施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、延長40m（又は50m）以下のものは1箇所につき2箇所。 1 施工箇所毎	
1 施工箇所毎	
推進管 1 本ごとに 1 箇所測定する。	
施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、延長40m（又は50m）以下のものは1箇所につき2箇所。	
	

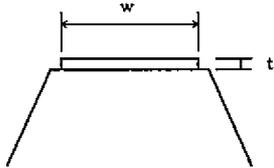
別表 1 直接測定による出来形管理

工種		項目		規格値		
3 ・ 頭首工	頭首工・本体 (固定堰)	基準高(▽)		± 30		
		幅(w)		- 30		
		厚さ(t)		- 20		
		高さ(h)		± 30		
		長さ(L)		L < 20m -50		
				L ≥ 20m -100		
	護床ブロック (異形ブロック)	基準高(▽)	層積	乱積	沈床工	
			±100	± t / 2	±150	
		面積	なし			
		厚さ(t)	- 20	- 20		
幅(w)		- 20	- t / 2	±300		
	延長(L)	-200	- t / 2	-200		
4 ・ 河川 護岸工	コンクリート法覆工 アスファルト法覆工	基準高(▽)		± 50		
		厚さ t < 100		- 20		
		t ≥ 100		- 30		
		法長 l < 3 m		- 50		
		l ≥ 3 m		-100		
		施工延長(L)		-200		
		裏込め材厚(t´)		- 50		
5 ・ 道路工	路盤工		個々の測定値		10個の測定値の平均	
			小規模以下	中規模以上	小	中
		基準高(▽)				
		下層	± 50	± 40		
		上層	± 30			
		幅	- 50			
		厚さ				
		下層	- 45		-15	-15
	上層	- 30	- 25	-10	-8	
		施工延長	-200			
	遮断層置換土安定処理路床工	基準高(▽)		±50		
厚さ(t)		-50				
幅(w)		-100				
施工延長(L)		-200				

測定基準	測定箇所
<p>固定堰の基準高、幅、高さ、厚さは両端、施工継手箇所及び構造図の寸法標示箇所にて測定。 可動堰は図面の寸法標示箇所にて測定。</p>	
<p>層積・乱積：施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。 層積・乱積：幅、厚さは40個につき1箇所測定。  層積・乱積：1施工箇所毎 沈床工の基準高、幅、延長は、1組毎に測定。</p>	
<p>施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。</p>	
<p>基準高は延長40m毎に1箇所の割とし、道路中心及び端部にて測定。  幅は延長80m毎に1箇所の割で測定。 厚さは各車線200m毎に1箇所を掘り起こして測定。</p>	<p>○施工規模の考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中規模以上の工事とは、1層当たりの施工面積が2,000m<sup>2</sup>以上かつ使用する基層及び表層用混合物の総使用量が500t以上の場合。</li> <li>・小規模工事とは、1層当たりの施工面積が2,000m<sup>2</sup>未満または使用する基層及び表層用混合物の総使用量が500t未満（コンクリートでは400m<sup>3</sup>未満）</li> </ul> <p>○厚さは、個々の測定値が10個に9個以上の割合で規格値を満足していなければならないとともに、10個の測定値平均値（X10）について満足しなければならない。ただし厚さのデータ数が10個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。</p>
<p>施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。 基準高は、道路中心線及び端部にて測定。 厚さは中心線及び端部にて測定。</p>	

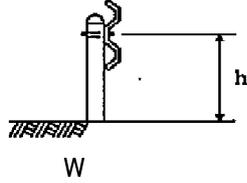
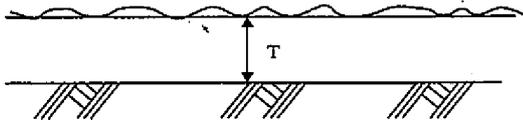
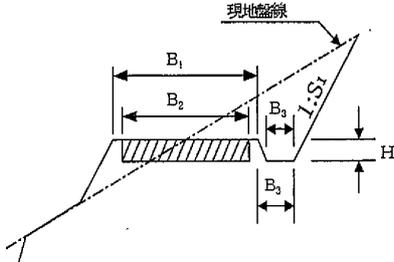
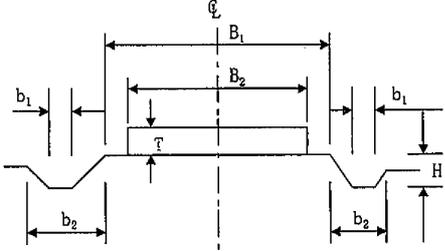
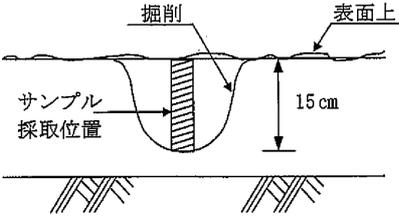
別表 1 直接測定による出来形管理

工種		項目		規格値		
5 ・ 道 路 工	コンクリート舗装工	個々の測定値		10個の測定値の平均		
			小規模以下	中規模以上	小	中
		基準高(▽)	± 30			
		幅	- 25			
		厚さ	- 10		-3.5	
		目地段差	± 2			
	施工延長	-200				
	平坦性	-		コンクリート硬化後、 3 mプロフィルメータ により、 機械舗設の場合 (σ) 2.4mm以下 人力舗設の場合 (σ) 3 mm以下		
	アスファルト舗装工 (基層工)		小規模以下	中規模以上	10個の測定値の平均	
		基準高(▽)	± 30		小	中
幅		- 25				
厚さ		- 12	- 9	-4	-3	
施工延長		-200				
(表層工)		基準高(▽)	± 30			
		幅	- 25			
		厚さ	- 9	- 7	-3	-2
	施工延長	-200				
平坦性	3 mプロフィルメータ (σ) = 2.4mm以下 直読式 (足付き) (σ) = 1.75mm以下					
敷砂利	幅(W)			-100		
	厚さ(t)			T < 15 c m	-25	
				T ≥ 15 c m	-50	
	施工延長(L)			-200		

測定基準	測定箇所
<p>基準高は延長40m毎に1箇所の割とし、道路中心線及び端部で測定。</p> <p>幅は、延長80m毎に1箇所の割で測定。</p> <p>厚さは各車線の中心付近で型枠据付後各車線200m毎に水系又はレベルにより1測線当たり横断方向に3箇所以上測定。</p> <p>隣接する目地に対して、道路中心線及び端部で測定。</p>	<p>○施工規模の考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中規模以上の工事とは、1層当たりの施工面積が<math>2,000\text{m}^2</math>以上かつ使用する基層及び表層用混合物の総使用量が500 t 以上の場合。</li> <li>・小規模工事とは、1層当たりの施工面積が<math>2,000\text{m}^2</math>未満または使用する基層及び表層用混合物の総使用量が500 t 未満（コンクリートでは<math>400\text{m}^3</math>未満）</li> </ul>
<p>平坦性は各車線毎に版縁から1mの線上、全延長とする。</p>	<p>○厚さは、個々の測定値が10個に9個以上の割合で規格値を満足していなければならないとともに、10個の測定値平均値（<math>\bar{X}_{10}</math>）について満足しなければならない。ただし厚さのデータ数が10個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。</p>
<p>幅は、延長80m毎に1箇所の割とし、厚さは、<math>1,000\text{m}^2</math>に1個の割でコアーを採取して測定。</p> <p>基準高は、延長40m毎に1箇所の割とし、道路中心線及び端部で測定。</p>	<p>コアー採取について</p> <p>橋面舗装等でコアー採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることができる。</p> <p>維持工事においては、平坦性の項目を省略することができる。</p>
<p>施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。</p> <p>厚さは、施工延長200mにつき1箇所、200m以下は2箇所、中央部で測定。</p>	

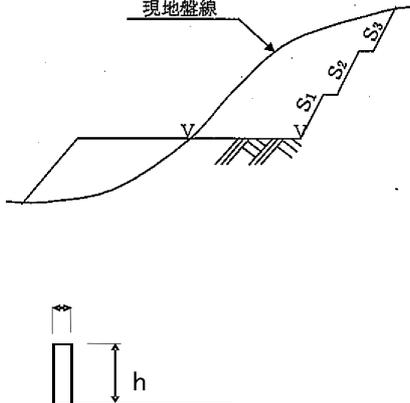
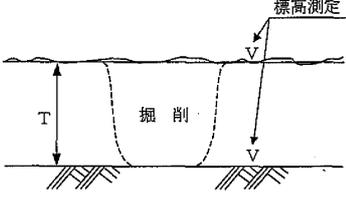
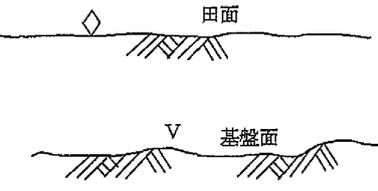
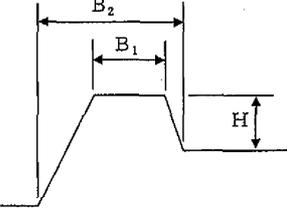
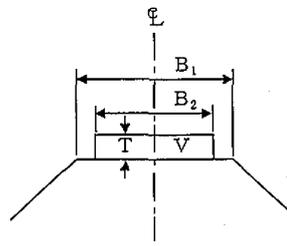
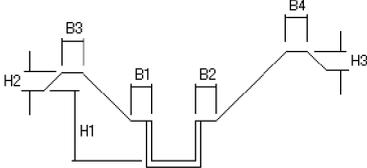
別表 1 直接測定による出来形管理

工種		項目	規格値
5 ・ 道 路 工	防護柵工 (ガードレール) (高欄)	ビーム設置高(h)	+ 30 ~ - 20
		高欄設置高(h)	+ 30 ~ - 20
		高欄幅	+ 10 ~ - 5
		施工延長	-200
6 ・ 農 用 地 造 成	耕土掘り起こし	耕起深(T)	
		果樹	- 75
		野菜	- 15
	テラス (階段畑)	幅員(B <sub>1</sub> )	指定した時 -150
		耕起幅(B <sub>2</sub> )	指定した時 -150
		側溝幅(B <sub>3</sub> )	- 75
		側溝高さ(H)	指定した時 - 75
	道路工 (耕作道)	幅(B <sub>1</sub> )	-100
		敷砂利幅(B <sub>2</sub> )	-100
		敷砂利厚さ(T)	- 25
側溝幅(b)		- 75	
側溝高さ(H)		指定した時 - 75	
施工延長(L)		-200	
土壌改良	PH測定	指定したとき±0.5	

測定基準	測定箇所
<p>1箇所／1施工箇所 1径間当たり両端と中央部の3箇所測定。</p>	
<p>おおむね1ha当たり、10箇所測定するほか、つぼ掘り2箇所/ha</p>	
<p>テラス延長おおむね100m当たり1箇所測定する。</p>	
<p>施工延長おおむね100m当たり1箇所測定する。</p>	
<p>おおむね50a当たり、1箇所（深さ15cm）改良材散布後2週間以上経過して測定する。（試験方法…ガラス電極法…46農地C第311号参照） 地表から15cmの土壌を柱状に採取し、良く混合する。</p>	

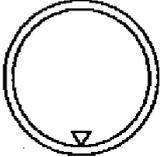
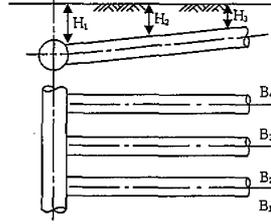
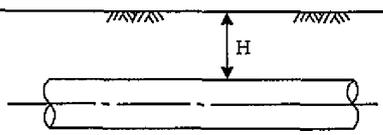
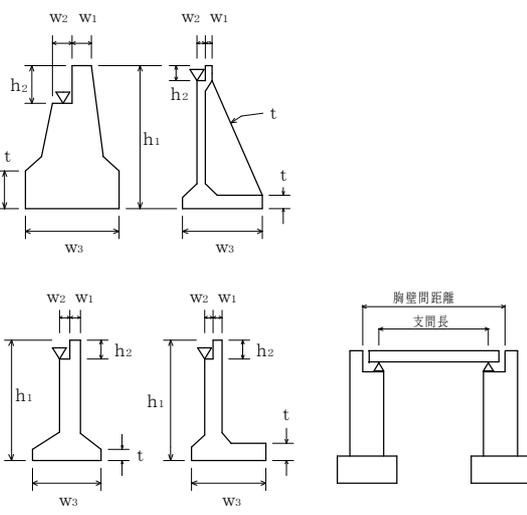
別表 1 直接測定による出来形管理

工種		項目	規格値
6 ・ 農用地造成	改良山成	基準高(V)	指定した時 ±300
7 ・ ほ場整備工事	表土扱い 耕土搬入	厚さ(T)	-20%
	基盤整地 整地仕上げ	基準高	指定した時 ±150
		均平度	
		・表土扱いを伴う場合 整地仕上げ	±50
		基盤整地	±50
		荒整地(翌年仕上)	±150
		・表土扱いを伴わない場合 整地仕上げ	±50
		荒整地(翌年仕上)	±150
	畦畔工	高さ(H)	-50
		幅(B <sub>1</sub> 、B <sub>2</sub> )	-50
道路工 (砂利道)	基準高(V)	指定した時 ±150	
	幅員(B <sub>1</sub> )	-100	
	敷砂利厚さ(T)	-25	
	敷砂利幅(B <sub>2</sub> )	-100	
	施工延長(L)	-200	
水路工	基準高(▽)	指定した時 ±50	
	幅(B <sub>1</sub> ~B <sub>4</sub> )	-75	
	高さ(H <sub>1</sub> ~H <sub>3</sub> )	指定した時 -75	
	施工延長(L)	-200	

測定基準	測定箇所
<p>基準高については切土部を40mメッシュ地点で測定する。</p> <p>法勾配については、40mメッシュ線と切土法尻との交点で測定する。（測定間隔は、おおむね40m）</p>	
<p>10 a 当たり 3 点以上。 （標高差測定又はつぼ掘りによる）</p>	
<p>10 a 当たり 3 点以上。 （標高測定する）</p>	
<p>施工延長おおむね200mにつき 1 箇所割合で測定する。</p> <p>施工延長を示さない場合は、1 耕区につき 1 箇所の割合で測定する。</p>	
<p>幹線道路は、施工延長50mにつき 1 箇所割合で測定する。</p> <p>支線道路は、施工延長おおむね200mにつき 1 箇所の割合で測定する。</p>	
	

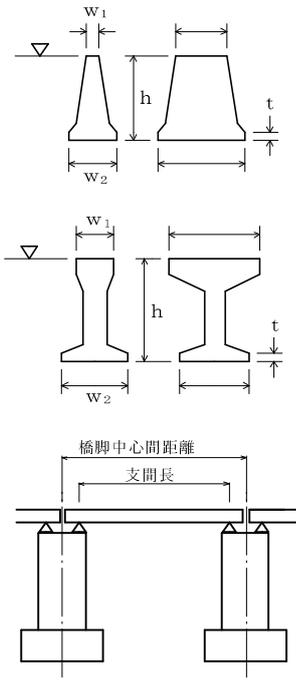
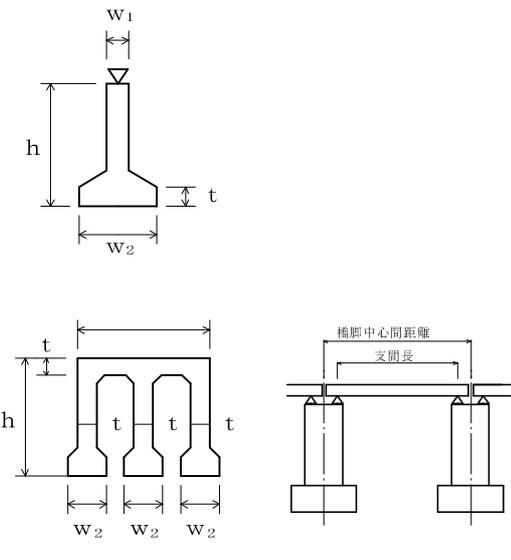
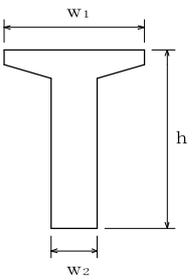
別表 1 直接測定による出来形管理

工種		項目	規格値
7 ・ ほ場 整備 工事	管排水路 (高密度ポリエチレン管)	基準高(V)	指定した時 ±50
		中心線のズレ(e)	±120
		施工延長(L)	-200
	マンホール (管排水路)	基準高(▽)	±30
		幅又は内径(w)	-30
		高さ(h)	-30
		厚さ(t)	-20
8 ・ 暗渠 排水 工事	吸水渠	布設深(H)	-75
		間隔(B)	±750
		施工延長(L)	-200
	集水渠(支線) 導水渠(幹線)	布設深(H)	-75
		施工延長(L)	-200
	補助暗渠排水工	掘削幅	設計値以上
		掘削深	設計値以上
		被覆材厚	設計値以上
		間隔	±750
		施工延長	-200
疎水材袋数	設計値以上		
9 ・ 橋梁 工事	橋台工	基準高(▽)	±20
		厚さ(t)	-20
		天端幅(w <sub>1</sub> ) 橋軸方向	-10
		天端幅(w <sub>2</sub> ) 橋軸方向	-10
		敷幅(W <sub>3</sub> ) 橋軸方向	-50
		高さ(h <sub>1</sub> )	-50
		胸壁の高さ(h <sub>2</sub> )	-30
		天端長(l <sub>1</sub> )	-50
		敷長(l <sub>2</sub> )	-50
		胸壁間距離(l)	±30
		支間長及び中心線の変位	±50
		橋台沓部	基準高(▽)
	厚さ		-10
	幅		-10
	高さ		-30

測定基準	測定箇所
1 箇所毎	
<p>上下流端の 2 箇所を測定する。 ただし、1 本の布設長がおおむね100m以上のときは、中間点を加えた 3 箇所を測定する。</p>	
<p>施工延長おおむね50mにつき 1 箇所の割合で測定する。</p>	
<p>1 耕区につき 1 渠線・1 断面を測定する。 ただし掘削幅については、疎水材心土充填機による施工の場合は不要とする。 1 耕区につき 5 間隔（6 渠線）を測定する。 1 耕区につき全渠線を測定する。 1 耕区につき 1 渠線を測定する。</p>	
<p>橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法標示箇所。</p>	

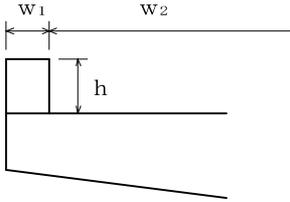
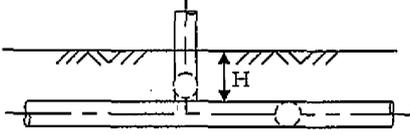
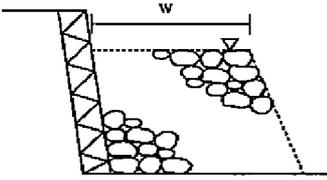
別表 1 直接測定による出来形管理

工種		項目	規格値
9 ・ 橋 梁 工 事	橋脚工 (張出式) (重力式) (半重力式)	基準高(▽)	±20
		厚さ(t)	-20
		天端幅(w <sub>1</sub> ) 橋軸方向	-20
		敷幅(w <sub>2</sub> ) 橋軸方向	-50
		高さ(h)	-50
		天端長(l <sub>1</sub> )	-50
		敷長(l <sub>2</sub> )	-50
		橋脚中心間距離(l)	±30
		支間長及び中心線の変位	±50
橋脚工 (ラーメン式)		基準高(▽)	±20
		厚さ(t)	-20
		天端幅(w <sub>1</sub> )	-20
		敷幅(w <sub>2</sub> )	-20
		高さ(h)	-50
		長さ(l)	-20
		橋脚中心間距離(l)	±30
		支間長及び中心線の変位	±50
コンクリート桁 (ポストテンションT桁)		上幅(w <sub>1</sub> )	+10、-5
		下幅(w <sub>2</sub> )	±5
		高さ(h)	+10、-5
		桁長、支間長(l)	L < 15m ±10
			L ≥ 15m ±(L-5) かつ -30mm以内
		横方向の最大タワミ	0.8 l

測定基準	測定箇所
<p>橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法標示箇所。</p>	
<p>橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法標示箇所。</p>	
<p>桁全数について測定。 横方向タワミの測定は、プレストレッシング後に測定。 桁断面寸法測定は箇所は、両端部、中央部の3箇所とする。 L：支間長</p>	

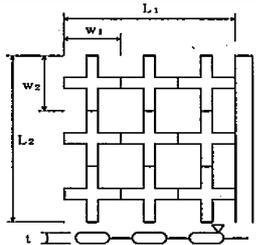
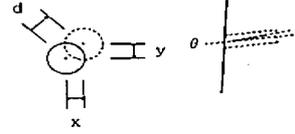
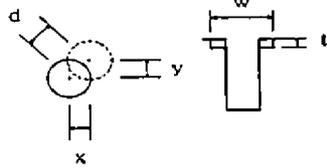
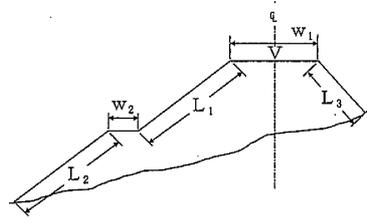
別表 1 直接測定による出来形管理

工種	項目	規格値	
9・橋梁工事	鉄筋コンクリート床版工	基準高(▽)	±20
		幅(w)	0 ~ +30
		厚さ(t)	+20、-10
		鉄筋の有効高さ	±10
		鉄筋のかぶり	0 ~ +25
		鉄筋間隔	±20 ±10 (有効高さがマイナスの場合)
	地覆工	幅(w <sub>1</sub> )	+20、-10
		高さ(h)	+20、-10
		有効幅員(w <sub>2</sub> )	+30、0
	10・畑地かんがい工事	配水管 (削除)	
散水管		埋設深(H)	-50
弁類ボックス (削除)			
11・公害防除特別土地改良事業	基盤整地工	基準高	指定した時 ±150
		均平度	
		整地仕上げ	±50
		基盤整地	±50
	客土工	厚さ(T)	設計値以上
		均平度	
		整地仕上げ	±50
		荒整地(翌年仕上)	±150
	畦畔工	高さ(H)	-50
		幅(B)	-50
		施工延長(L)	-200
	水路工 (土水路)	幅(B)	-75
		高さ(H)	-75
		施工延長(L)	-200
	道路工	幅員(B)	-100
		敷砂利厚さ(T)	-25
		敷砂利幅(B)	-100
覆土厚(t)		-30	
施工延長(L)		-200	
かくはん工	かくはん深	+25、-30	
12・海岸河川工事	捨石工	基準高(▽)	-100
		幅(w)	-100
		延長(L)	-200

測定基準	測定箇所
<p>基準高は、1径間当たり2箇所（支点付近）で、1箇所当たり両端と中央部3点、幅は1径間当たり3箇所、厚さは型枠設置時におおむね10㎡に1箇所測定。（床版の厚さは、型枠検査をもって代える。）</p>	
<p>1径間当たり3断面（両端及び中央）測定。1断面の測定箇所は断面変化毎1箇所とする。</p>	
<p>1径間当たり3箇所（両端及び中央部）測定 1箇所の測定は、橋軸方向の鉄筋は全数、橋軸直角方向の鉄筋は加工形状毎に2mの範囲を測定。</p>	
<p>1径間当たり両端と中央部の3箇所測定。</p>	
<p>構造図の寸法表示箇所を測定する。</p>	
<p>施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。</p>	

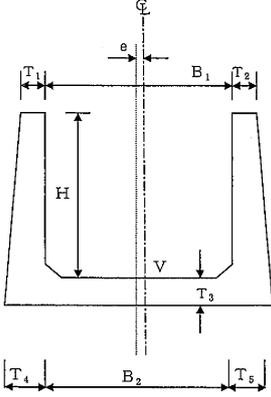
別表 1 直接測定による出来形管理

工種		項目	規格値	
12 ・ 海岸 河川 工事	消波ブロック	基準高(V)	層積±300 乱積± t / 2	
		厚さ(t)	-20	
		幅(w)	-20	
		延長(L)	-200	
13 ・ 地す べり 工事	集排水ボーリング	せん孔方向(θ)	±2.5°	
		配置誤差(d)	100	
		削孔深さ(l)	設計値以上	
	集水井工	基準高(▽)	± 50	
		偏心量(d)	150	
		長さ(L)	-100	
		巻立て幅(w)	- 50	
		巻立て厚さ(t)	- 30	
	14 ・ ため 池工 事	堤体盛土	基準高(V)	-0
			堤幅 遮水 (W)	-0 , +500
その他(W <sub>1</sub> )			-100	
法長(L <sub>1</sub> 、L <sub>2</sub> 、L <sub>3</sub> )			-100	
施工延長(L)			-200	
グラウト工		深度(L)	設計値以上	
		孔間隔・幅	± 100	

測定基準	測定箇所
<p>施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。 幅、厚さは40個につき1箇所測定。</p>	
<p>全数測定。</p>	 $d = \sqrt{x^2 + y^2}$
<p>全数測定。 偏心量は、杭頭と底面の差を測定。</p>	 $d = \sqrt{x^2 + y^2}$
<p>線的なものについては施工延長おおむね20mにつき1箇所の割合で測定する。 上記未満は2箇所測定する。</p>	
<p>全数測定。</p>	<p>建設交通部 5-3-3を参考</p>

別表 1 直接測定による出来形管理

工種		項目	規格値
14 ・ ため 池 工事	洪水吐工	基準高(V)	± 30
		厚さ(T)	± 20
		幅(B)	± 30
		高さ(H)	± 30
		中心のズレ(e)	
		直線部	± 50
		曲線部	±100
		施工延長(L)	-150
		スパン長(L)	
		直線部	± 20
曲線部	± 30		
15 ・ 公園 緑地 工事	樹木植栽工	樹高	-0
		目通り周(芝・付周)	-0
		葉張径	-0
	地覆類植栽工	樹高	-0
		辺長	
		L < 5 0 m	-50
		L ≥ 5 0 m	-100
	支柱工 (木材、竹材)	長さ	-0
		径	-0
	公園土工 (広場造成に適用)	基準高(▽)	±60
		幅	
		L < 3 0 m	- 1 %
		L ≥ 3 0 m	- 300
		法長	
		L < 5 m	- 1 %
L ≥ 5 m	- 2 %		

測定基準	測定箇所
<p>基準高、厚さ、幅、高さ、中心線のズレについては、施工延長1スパンにつき1箇所の割合で測定する。</p> <p>箇所単位のものについては適宜構造図の寸法表示箇所を測定する。</p>	 <p>The diagram shows a cross-section of a U-shaped structure. A vertical dashed line represents the centerline, with a symbol 'C' at the top. A horizontal arrow labeled 'e' indicates the offset from the centerline to the top edge. Dimensions are labeled as follows: T1 and T2 are the top flange thicknesses; B1 is the top flange width; H is the height of the vertical wall; V is the depth of the bottom flange; T3 is the bottom flange thickness; T4 and T5 are the bottom flange thicknesses; B2 is the bottom flange width.</p>
<p>高中木 樹種毎 200本未満 5%以上 500本未満 4%以上 1000本未満 3%以上 抵木 樹種毎 200株未満 3%以上 500株未満 1.5%以上 1000株未満 0.8%以上</p>	
<p>総辺数の 1 / 3 以上</p>	
<p>樹木植栽工に同じ</p>	
<p>1 施工広場 3 箇所以上測定し、変化点は変化点ごとに測定する。</p>	

別表ア 管水路(コンクリート二次製品)のジョイント間隔管理基準値

(単位: mm)

J I S A 5372 R C 管					
呼び径 (mm)	標準値	(参考) 規格値			
		良質地盤		軟弱地盤	
150	6	+10	-6	+5	-6
200	6	+10	-6	+5	-6
250	6	+10	-6	+5	-6
300	6	+9	-6	+4	-6
350	6	+9	-6	+4	-6
400	8	+9	-6	+3	-8
450	8	+9	-6	+3	-8
500	8	+9	-6	+3	-8
600	8	+12	-8	+5	-8
700	8	+10	-8	+4	-8
800	8	+12	-8	+5	-8
900	8	+15	-8	+7	-8
1,000	10	+18	-10	+8	-10
1,100	10	+19	-10	+9	-10
1,200	10	+21	-10	+11	-10
1,350	10	+23	-10	+12	-10
1,500	8	+15	-8	+7	-8
1,650	8	+15	-8	+7	-8
1,800	8	+15	-8	+7	-8
2,000	8	+15	-8	+7	-8
2,200	8	+15	-8	+7	-8
2,400	10	+10	-10	+7	-10
2,600	10	+10	-10	+7	-10
2,800	10	+10	-10	+7	-10
3,000	10	+10	-10	+7	-10

- 注) 1. ※印の呼び径はJIS規格外ではあり参考値である。  
 2. 管理基準値は、接合時の値であり、4箇所ノ平均値とする。  
 3. (参考) 規格値は埋戻し後の値であり、原則として4箇所ノうち1箇所でもこの値を  
 超えてはならない。  
 4. 接合時の測定は、原則として管の内から測定するものとする。ただし、呼び径700mm  
 以下ノ場合、管の外から確認してもよい。また、埋戻し後の測定は、原則として呼び径700  
 mm以下ノ測定は必要ない。  
 なお、「埋戻し後」とは、特に指示がない限り、舗装(表層、上層路盤、下層路盤)  
 を除いた埋戻し完了時点とする。

(単位：mm)

## J I S A 5303 R C 管 (スペーサー用ゴムを添付)

呼び径 (mm)	標準値	(参考)規格値	
		良質地盤	軟弱地盤
150	—	—	—
200	—	—	—
250	—	—	—
300	—	—	—
350	—	—	—
400	—	—	—
450	—	—	—
500	8	+9 -5	+3 -5
600	8	+12 -5	+5 -5
700	8	+10 -5	+4 -5
800	8	+12 -5	+5 -5
900	8	+15 -5	+7 -5
1,000	10	+18 -7	+8 -7
1,100	10	+19 -7	+9 -7
1,200	10	+21 -7	+11 -7
1,350	10	+23 -7	+12 -7
1,500	—	—	—
1,650	—	—	—
1,800	—	—	—
2,000	—	—	—
2,200	—	—	—
2,400	—	—	—
2,600	—	—	—
2,800	—	—	—
3,000	—	—	—

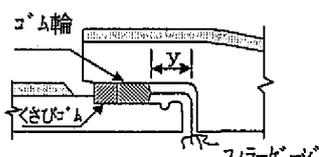
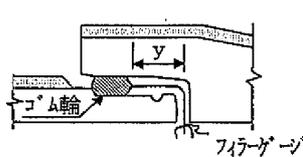
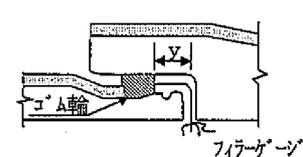
別表イ 管水路(コンクリート二次製品)のジョイント間隔管理基準値

(単位：mm)

P C 管		
呼び径 (mm)	標準値	(参考) 規格値
150	—	—
200	—	—
250	—	—
300	—	—
350	—	—
400	—	—
450	—	—
500	8	+16 — 5
600	10	+18 — 7
700	10	+18 — 7
800	10	+18 — 7
900	10	+18 — 7
1,000	12	+21 — 9
1,100	12	+21 — 9
1,200	12	+21 — 9
1,350	12	+21 — 9
1,500	14	+24 — 11
1,650	14	+24 — 11
1,800	14	+24 — 11
2,000	14	+24 — 11
※2,100	15	+23 — 12
※2,200	15	+23 — 12
※2,300	15	+23 — 12
※2,400	15	+23 — 12

別表イ 管水路(コンクリート二次製品)のゴム輪位置管理基準値

(単位: mm)

規格		P C 管				
呼び径	標準値	(参考) 規格値	標準値	(参考) 規格値	標準値	(参考) 規格値
500						
600						
700						
800						
900	50	- 9	60	- 9	18	- 10
1,000	65	- 9	70	- 9	20	- 10
1,100	65	- 9	70	- 9	20	- 10
1,200	65	- 9	70	- 9	20	- 10
1,350	65	- 9	70	- 9	20	- 10
1,500	85	- 9	75	- 9	22	- 10
1,650	85	- 9	75	- 9	22	- 10
1,800	85	- 9	75	- 9	22	- 10
2,000	85	- 9	75	- 9	22	- 10
※2,100	90	- 10	90	- 10	23	- 11
※2,200	100	- 10	90	- 10	23	- 11
※2,300	100	- 10	90	- 10	23	- 11
※2,400	100	- 10	90	- 10	23	- 11
製造方法	遠心力方式		ロール転圧方式		遠心力方式	
継手方式	R O 形			S L 形		
測定方法						

- 注) 1. 管理基準値は、接合時の値であり、4箇所のうち1箇所でもこの値を超えてはならない。  
 2. 接合時に管理基準値を超えた場合は再度接合を行うこととする。  
 3. 上表はS形P C管のR O形及びS L形継手方式に適用する。  
 4. 管理基準値の+ (プラス) 側は規定しないので- (マイナス) 側のみで行うこととする。  
 5. 製品仕様により上記基準値が適合しない場合は、別途打ち合わせ簿等により定めることとする。

別表ウ 管水路(ダクタイトイル鑄鉄管)のジョイント間隔管理基準値

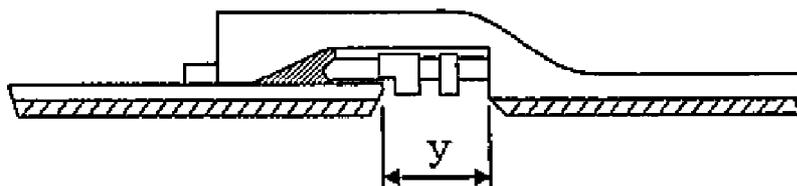
(単位：mm)

規格	J D P A	J I S G 5526及びJ D P A G 1027
	A形	K形
呼び径 (mm)	(参考) 規格値	(参考) 規格値
75	+19 0	+19 0
100	+19 0	+19 0
150	+19 0	+19 0
200	+19 0	+19 0
250	+19 0	+19 0
300	+19 0	+19 0
350	+31 0	+31 0
40	—	+31 0
450	—	+31 0
500	—	+31 0
600	—	+31 0
700	—	+31 0
800	—	+31 0
900	—	+31 0
1,000	—	+36 0
1,100	—	+36 0
1,200	—	+36 0
1,350	—	+36 0
1,500	—	+36 0
1,600	—	+40 0
1,650	—	+45 0
1,800	—	+45 0
2,000	—	+50 0
2,100	—	+55 0
2,200	—	+55 0
2,400	—	+60 0
2600	—	+70 0

- 注) 1. 管理基準値は接合時の値であり、4箇所での平均値とする。
2. (参考) 規格値は埋戻し後の値であり、原則として4箇所のうち1箇所でもこの値を超えてはならない。
3. 接合時の測定は、原則として管の内から測定するものとする。ただし、呼び径700mm以下の場合、管の外から確認してもよい。また、埋戻し後の測定は、原則として呼び径700mm以下の測定は必要ない。  
なお、「埋戻し後」とは、特に指示がない限り、舗装(表層、上層路盤、下層路盤)を除いた埋戻し完了時点とする。
4. ダクタイトイル鑄鉄管のうちU形管の標準値は次ページの図のy寸法である。

(単位 : mm)

規格	J I S A 5526		J I S G 5526及びJ D P A G 1027		
	U形		T形		
呼び径 (mm)	標準値	(参考) 規格値		(参考) 規格値	
75	—	—	—	+16	0
100	—	—	—	+16	0
150	—	—	—	+16	0
200	—	—	—	+14	0
250	—	—	—	+14	0
300	—	—	—	+24	0
350	—	—	—	+24	0
40	—	—	—	+24	0
450	—	—	—	+24	0
500	—	—	—	+30	0
600	—	—	—	+30	0
700	105	+35	-5	+30	0
800	105	+35	-5	+30	0
900	105	+35	-5	+40	0
1,000	105	+35	-5	+40	0
1,100	105	+35	-5	+40	0
1,200	105	+35	-5	+50	0
1,350	105	+35	-5	+50	0
1,500	105	+35	-5	+60	0
1,600	115	+36	-5	+70	0
1,650	115	+36	-5	+70	0
1,800	115	+36	-5	+80	0
2,000	115	+36	-5	+80	0
2,100	115	+36	-5	—	—
2,200	115	+36	-5	—	—
2,400	115	+36	-5	—	—
2,600	130	+36	-5	—	—



別表エ 管水路(強化プラスチック複合管)のジョイント間隔管理基準値

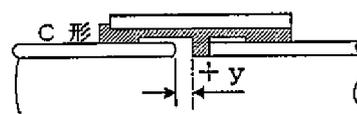
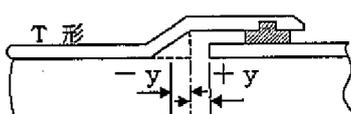
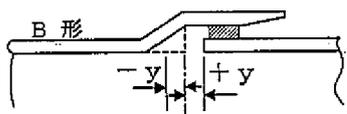
(単位: mm)

規格	J I S A5350				
	B形及びT形				
呼び径 (mm)	標準値	(参考) 規格値			
		( ) 内数値		( ) 内数値	
		良質地盤		軟弱地盤	
200	0	+33	-33 (0)	+22	-22 (0)
250	0	+33	-33 (0)	+22	-22 (0)
300	0	+38	-38 (0)	+25	-25 (0)
350	0	+38	-38 (0)	+25	-25 (0)
400	0	+43	-43 (0)	+28	-28 (0)
450	0	+43	-43 (0)	+28	-28 (0)
500	0	+53	-52 (0)	+35	-34 (0)
600	0	+53	-52 (0)	+35	-34 (0)
700	0	+53	-52 (0)	+35	-34 (0)
800	0	+53	-52 (0)	+35	-34 (0)
900	0	+53	-52 (0)	+35	-34 (0)
1,000	0	+53	-51 (0)	+35	-33 (0)
1,100	0	+53	-51 (0)	+35	-33 (0)
1,200	0	+53	-51 (0)	+35	-33 (0)
1,350	0	+53	-51 (0)	+35	-33 (0)
1,500	0	+53	-51 (0)	+35	-33 (0)
1,650	0	+80	-77 (0)	+53	-50 (0)
1,800	0	+80	-77 (0)	+53	-50 (0)
2,000	0	+95	-92 (0)	+63	-60 (0)
2,200	0	+95	-92 (0)	+63	-60 (0)
2,400	0	+113	-110 (0)	+75	-72 (0)
2,600	0	+113	-110 (0)	+75	-72 (0)
2,800	0	+128	-125 (0)	+85	-82 (0)
3,000	0	+128	-125 (0)	+85	-82 (0)

- 注) 1. 管理基準値は接合時の値であり、4箇所での平均値とする。
2. (参考) 規格値は埋戻し後の値であり、原則として4箇所のうち1箇所でもこの値を超えてはならない。
3. 接合時の測定は、原則として管内から測定するものとする。ただし、呼び径700mm以下の場合、管の外から確認してもよい。また、埋戻し後の測定は、原則として呼び径700mm以下の測定は必要ない。  
なお、「埋戻し後」とは、特に指示がない限り、舗装(表層、上層路盤、下層路盤)を除いた埋戻し完了時点とする。
4. 継手部の標準断面図は次ページのとおりであり、標準値は図の寸法yである。なお、(参考) 規格値のうち( ) 内数値は、点線で示した形状の管に適用する。

(単位 : mm)

規格	J I S A5350				
	C形				
	呼び径 (mm)	標準値	(参考) 規格値		
良質地盤			軟弱地盤		
200	0	+33	0	+22	0
250	0	+33	0	+22	0
300	0	+38	0	+25	0
350	0	+38	0	+25	0
400	0	+43	0	+28	0
450	0	+43	0	+28	0
500	0	+53	0	+35	0
600	0	+53	0	+35	0
700	0	+53	0	+35	0
800	0	+53	0	+35	0
900	0	+53	0	+35	0
1,000	0	+53	0	+35	0
1,100	0	+53	0	+35	0
1,200	0	+53	0	+35	0
1,350	0	+53	0	+35	0
1,500	0	+53	0	+35	0
1,650	0	+80	0	+53	0
1,800	0	+80	0	+53	0
2,000	0	+95	0	+63	0
2,200	0	+95	0	+63	0
2,400	0	+113	0	+75	0
2,600	0	—	—	—	—
2,800	0	—	—	—	—
3,000	0	—	—	—	—



(単位 : mm)

規格	J I S A5350				
	D形				
	呼び径 (mm)	標準値	(参考) 規格値		
良質地盤			軟弱地盤		
200	0	+25	-3	+15	-3
250	0	+25	-3	+15	-3
300	0	+25	-3	+15	-3
350	0	+25	-3	+15	-3
400	0	+35	-3	+25	-3
450	0	+35	-3	+25	-3
500	0	+35	-3	+25	-3
600	0	+35	-3	+25	-3
700	0	+35	-3	+25	-3
800	0	+40	-5	+30	-5
900	0	+40	-5	+30	-5
1,000	0	+40	-5	+30	-5
1,100	0	+40	-5	+30	-5
1,200	0	+40	-5	+30	-5
1,350	0	+40	-5	+30	-5
1,500	0	+45	-5	+35	-5
1,650	0	+45	-5	+35	-5
1,800	0	+45	-5	+35	-5
2,000	0	+45	-5	+35	-5
2,200	0	+50	-5	+40	-5
2,400	0	+50	-5	+40	-5

D 形

